

さあ、始めよう！みどりの学び！

一般財団法人
日本緑化センター

Greenage グリーンエージ Online オンライン Academy アカデミー

グリーンエージ オンライン アカデミー (GOA) とは

緑化技術者の技術の向上、新たな緑化技術者の育成、さらに一般の方々への緑化思想や技術の普及・啓発を図るため、緑化関連技術等に関する新たな講座をオンラインで配信するものです。

GOA の特長



大学の先生や研究者、ベテラン緑化技術者など名だたる方々が講師を務めます。



緑に関するさまざまな分野から、多種多様な講座を準備しています。



初めて緑に関わる初級者にもわかりやすい、研修向けの講座も準備しています。



数ある講座の中から、ひとつだけを選んで視聴（受講）することができます。



お申し込み後から 14 日間の配信期間中はご都合のよい時間帯に繰り返し視聴可能です。



すべての講座が樹木医 CPD 及び造園 CPD の登録プログラムです。

緑に関心のある一般の方も 専門家の方も
グリーンエージ オンライン アカデミーを
ぜひ、ご活用ください！

詳しくは 日本緑化センターホームページをご覧ください

GOA 初代学長
東京農業大学名誉教授

進士五十八 先生



開校時の20講座（タイトル・講師・概略）のご案内

※今後さらに追加していきます

みどりの時代を拓く公園緑地計画のこれまでとこれから 蓼茂 壽太郎

本講座では、まず、都市計画における公園緑地の意義と今後の課題に触れます。一つは公園緑地の意義について、もう一つはまちづくりでどう公園緑地を生かすかの課題と未来展望です。公園緑地計画の過去から現在までを紐解くことで意義の理解を促します。公園緑地計画の起源、世界の大都市問題との関わり、施設としての公園と土地利用としての緑地を対比して考察します。そして日本の都市計画にフォーカスを絞り、都市計画100年と公園緑地への関心、都市計画50年と緑の基本計画の展開を述べます。結びに公園緑地計画の今後をランドスケープ・イニシアティブとしてお話しします。

日本の近代庭園 ーその様式と空間ー 粟野 隆

日本近代の庭園は、近世以前の庭園と比較にならないほど、姿や形の全く異なる様式がいくつも形成された点で特異である。そのひとつの洋風庭園は、日本の西欧的近代化を端的かつ明快に示すものである。従来の日本庭園についても、西洋の庭園文化の受容によって、日本庭園における「和」の概念が西洋と相対的に捉えられ、旧来の伝統様式を近代的な感覚で問い直した庭園へと革新していった。本講義では、日本近代の顕著な特徴を持つ庭園がいかなる経緯で誕生したのか、その様式や空間にはどのような特徴があったのかを、主として明治・大正・昭和初期の庭園について見てゆくこととした。

自然風景地の体験と緑地等の風景管理 山本 清龍

日本の国立公園等の自然風景地では、訪れた人が優れた風景を楽しむことができるだけでなく、地域の中に人が居住し、生活、生業が展開され、文化が形成され、価値のある自然生態系を保護する地域も含まれている。それゆえ、自然保護と地域振興との両者が求められており、緑地等の風景と来訪者の自然体験の両者の保護が求められている。講座では、自然公園法などの自然風景地の保護制度を紹介した上で、風景と利用体験をまもる仕組み、取り組みについて紹介する。

集合住宅地における既存樹木の保全の意義とその手法 小木 曾裕

本講座は私が日本造園学会の学会賞（計画部門）を受賞した、「緑の保存利活用についての居住者との合意形成」による住宅団地建替事業の推進」に基づき、前職のUR都市機構における建替事業の実践の経験とさらに学際としての研究論文等から、実例を示しながらエビデンスを持って「集合住宅地における既存樹木の保全の意義とその手法」についてお伝えします。講座内容は環境配慮が求められる現在社会において、集合住宅の建物配置計画等の段階での既存樹木の保存・移植・リサイクルの活用手法の考え方、豊かな緑の潤いを居住者が享受しその意識調査からの実践と知見を交え、事業手法や景観及び樹木医としての知見も踏まえお話しします。

空間情報技術による造園空間の視覚化 國井 洋一

空間情報技術は写真測量やレーザ測量といった先端測量技術の総称であり、その活用によって空間の3次元情報を得ることができます。そのような技術は、造園空間において応用することも大変重要であり、対象地の状況を効率的かつ効果的に取得することができます。さらには、人工知能（AI）を用いた深層学習により、従来は主観的に捉えられていた景観の様々な特徴を、定量指標で示すことで客観的に把握することも研究されております。本講座では、そのような空間情報技術の手法について論じると共に、具体的な事例として庭園や公園、都市空間や自然空間といった対象地における応用例を紹介いたします。

身近に発生する庭木の病気と害虫の対策 ～防ぐ・見つける・対処する～ 草間 祐輔

植物を楽しむうえで毎年発生する病気や害虫は誰にとっても悩みの種です。高温多湿の日本ではその種類や発生も多くなりかめうちに被害を受けていたというケースが少なくありません。園芸愛好家の多くは、大切な植物に発生する異変は何か、予防や対処方法を知らずして、そんな思いを抱きながら育てているのではないのでしょうか。本講座では、身近な庭木、花木に発生する被害症状をわかりやすいカラー写真で紹介し、病気や害虫の名前を知らない人でも簡単に原因を確かめられるよう解説します。そして、防除のツボとして早期発見のツボや予防につながる対処法、ここぞという時の薬剤利用について、総合的な病虫害対策をいかに説明します。

日本の海岸林（総論） 吉崎 真司

我が国における海岸マツ林及び海岸防災林の成立の歴史を俯瞰し、海岸防災林の機能と効果を概説する。また、東日本大震災発災前の海岸林の課題を整理するとともに、東日本大震災による海岸林の被災状況と震災後の海岸林の復旧状況、並びに再生にあたって浮かび上がった課題を整理する。これらの状況及び震災後の復興方針に基づいて、海岸防災林の将来をどのように考えれば良いのか、更にはこれから再生する海岸防災林を地域に根差した樹林に育てるための基本的な考え方を提示する。最後に、造成された海岸林の評価と将来のモニタリングの考え方を提案する。

造園緑化の植栽基盤（土壌）について基礎と診断を学ぶ 牧 隆

植栽基盤（土壌）は、樹木の生育に必要な養分を吸収する根、樹体を支える丈夫な根を張るために必要である。樹木は植栽基盤が適切でなければ、健全な生育は望めない。高度成長期以後、造成された市街地や高速道路の緑化地などでは植栽基盤の不良による枯死や生育不良が多く出現したことを受け、植栽基盤の重要性が認識され、2003年度に「植栽基盤診断士」なる資格が創設された。昨今の都市緑化でも、樹木が健全に生育できない地盤が多く、街路樹診断や名木古木診断においても、植栽基盤の重要性が認識されている。本講座では、造園緑化にとって最適な植栽基盤とはどういうものかを説明し、それらを調査する方法及び調査結果の判定を学ぶ。

樹木医 × 起業 森 広志、片岡 日出美

樹木医の起業というテーマで講座を担当させていただきます。

樹木医の会社として起業して、撮影日の2022年4月（3期目突入）時点でのリアルな数字や現状を共有しながら、独立・開業したい方だけでなく、社内起業のような形で新たな仕事に挑戦したい方や、新しい仕事にチャレンジできていないと感じている方々の背中を押すことが出来れば嬉しいです。

課題に答える文章の書き方 1 ー樹木医試験の論述試験を例にしてー 富樫 一巳

講義では、まず一般的な主題として「課題に答える文章の書き方」を解説する。その中で「課題に答える文章」を書くために、四つの手順（課題の分析、情報の収集と整理、答えの作成、文章の見直し）を説明する。そして、その時に注意すべき点を解説する。続いて、樹木医試験の過去の論述試験を例にして、具体的に課題に答える文章（解答）の書き方を説明する。今回は令和元年度の3題の論述試験を対象にして、解答に必要な基本的な知識を解説しながら、四つの手順を適用した場合の解答例を示す。次に、情報が制限されている場合の対応方法に話を展開する。

「地域の誇りを後世に伝えるために…歴史・文化資産を活かしたまちづくり」 舟引 敏明

地域の歴史・文化資産は、長い年月をかけて積み重ねて形成されたもので、失うことなく未来へ引き継いでいかねばならない。しかし経済効率優先の社会では、このような資産は失われがちで、政策的な取り組みが必要である。この講座では、第一にこの目的を実現するためにつくられた文化財保護法、古都保存法、景観法、歴史まちづくり法などの法制度について、その基本的な考え方や仕組みを解説する。第二に歴史まちづくりに取り組んだ市長へのインタビューを通じて、歴史まちづくりに取り組む目的、地域にもたらす効果などについて明らかにする。

「庭屋一如 すぐに使える日本庭園のみかた」と「いかに庭園街道」 藤井 哲郎

日本庭園の愛好者をふやし庭園を後世にのこすためには、解説を聞かなくても自力で庭園を読み解き味わうことができる鑑賞者を増やしていくことが不可欠と考え、これまでに庭園の鑑賞法講座を300回以上開催してきました。庭園の鑑賞法のベースとなる本講座では以下の3点を中心にお伝えします。①庭屋一如を掘り下げる着眼点②伝統的な日本庭園に共通するビューポイント③日本庭園の重要な見立て 受講された皆さんからは「目からウロコが落ちた」、「今まで知らなかった」、「大切なものを見落とす」、「学んだ「みかた」を多くの庭園で使ってみよう」、「もっと早く知りたかった」などの感想を多数いただいています。

大樹の継承と観光まちづくり 押田 佳子

「大樹」は樹齢と大きさにより、地域に長く根付いたまちのシンボルたる資源である。にもかかわらず、災害や戦災復興、都市開発などの影響を受け、現代まで継承される「大樹」の多くは境内外にある御神木が主となっている。そこで今回は御神木を中心とする大樹の継承実態と観光資源性について、「1. 近世鎌倉における大樹の観光資源性」「2. 「大銀杏」の観光資源性の継承」「3. 現代鎌倉における「観光資源」としての大樹」「4. 江戸の御神木の保全と観光資源性」の4つの視点より紹介する。

みんなで創る おもてなしガーデン 竹谷 仁志

①花は街のコミュニケーションツール 一見面倒と思われる花のお手入れ活動を通じて人が出会う、繋がりが生まれる、新たな仲間が出来る、をご紹介 ②TOKYO2020を機に日本の夏も花の季節に！ 過酷な夏でも花演出・装飾の可能性が広がりました ③江戸から伝わる園芸の危機 江戸から続く日本独特の園芸文化、このままでは20年後には日本の花・農家が絶滅する危機に瀕しています 新たな花需要として造園分野での活用を！ 園芸・造園 垣根を越えて！ ④こんな時だからこそ！ みんなと一緒に花の楽しい！！ 花生産者・種苗メーカーとの連携イベントの導入・活用 花の集客力、季節感を街や公園に活用する

樹木診断の実際 ー目につくところと観察のカギー 多田 亨

一本の樹木を前にして診断を進めるには多くの関連知識が必要となる。しかしいざ診断を始めると、参考文献や知見から得た多くの知識を持っても対応できない事象に出会って判断に迷い、時間ばかりが過ぎていくことがよくある。限られた現場時間の中で診断を進めるためには、的を射た効率的な手順が必要である。本講座では、失敗から学んだ事例などを含め、診断の手順と目につくところについて学ぶ。特に、具体的な解説では、小道具の使い方などに触れ、経験者の浅い諸氏に対しても役立てていただけるよう工夫した。

森林における菌類の役割 ー菌類がいなければ森林は消滅するー 金子 繁

一般的にキノコやカビと呼ばれる菌類は、他の生物にとりつか（寄生）、慣れあうか（共生）、死骸を食べる（腐生）の、3つの道をたどって進化した。森に生息する菌類は、森の木の病原菌としてとらえられることが多いが、広い目で見ると様々な菌類の中には健全な森は存続できない。この講座では、森の木の共生者としての菌根菌類の仲間、森の清掃者としての木材腐朽菌類・落葉分解菌類の仲間、森全体のバランスを保ち、場合によっては森の多様性の維持などにも関わる寄生菌類の仲間、木の成長の促進などにも関わる内生菌類の仲間などの、具体的な森での役割について解説したい。

緑のはなし ー緑化の軌跡と都市における修景植栽ー 山田 和司

本講座は、最初に緑の基である植物がどのように生まれ、進化してきたかを確認する事により、植物の存在が人間にとって不可欠のものである事を認識する。そして、緑化が始められた目的及び観点、どのような背景の基に進められて来たのかといった緑化の軌跡を概観する事により、緑化が推進されてきた人的・社会的条件を確認する。次に、緑化の実践として、都市空間における修景緑化を行う上での各公共空間別に望ましい植栽の考え方について概説する。最後に、緑化における管理の大切さと、その基本的考え方を述べるものとする。

樹木の調査・診断 永石 憲道

現在、樹木医として私が関わる診断には大きく分けて2つの流れがある。その一つは活力診断（VIGOR）であり、木の生育状態、部位別の美観要素を含めた評価を行い、適切に育成しているかを判断するものである。もう一つは倒木危険度診断（STRUCTURE）である。樹木の部位、組織のそれぞれについて、幾つかの補助具をつかった外観判断を実施する。破壊に至る前、これらの劣化をごく初期の段階で発見することによって対策を講じ、問題を除外する。この講座では、身の回りの樹木がどのような課題を抱えているのか、またそれをどのように評価、診断しているのか、そしてどのような対策がなされるのかを解説し、実際の診断の様子も一部動画にて解説する。

樹木医起業 ーいつだって五里霧中ー 深沢 尚樹

これから樹木医として起業しようという方は、樹木医やその関連市場の動向を見据え、どのように立ち回ろうかある程度想いを巡らせているでしょう。このような方々に向け、ご自身や身の回りの状況を踏まえて、起業を決定する際の留意点などについて整理します。

樹木医の知識・技術を備えただけでは起業はできません。事業者として必要なこと、樹木医業者として大事なこと、注意しなければならないことに焦点を当てます。そして、起業よりも継続は至難の業です。見込まれる客層と売り方を模索し安定した経営を目指すための工夫などについて解説します。

事例に学ぶ公園等の樹木管理 小林 明

国内には先人のたゆまぬ努力により、多種多様な公園が整備されている。公園らしさを実感させるものに樹木がある。植栽された樹木は、年月の経過につれ、それぞれの種類が持つ特徴を発揮して植樹された多くの目的を果たしている一方で、風雪や病虫害などによって損傷や枯損が発生し、あるいは樹木や害虫が利用者や園内施設、近隣の施設等の安全を脅かすこともある。樹木の健全育成を図るとともに、次世代に向けて更新も含めた対応が求められる現在、これまでの管理事例を管理者や事業者、市民のかかわりなどの視点から紹介し、今後の適切な樹木管理のあり方を考える。